

NASUSHIOBARA newsletter

2 / 5

February 2017 No.291



二十歳の門出



成人式の3会場で
新成人の皆さんに
将来の夢を書いてもらった。
皆さんは二十歳のときに
どんな夢を描いていただけるか。



贈る言葉



君島市長

自分に誠実に
夢や希望を持って――

本日でめでたく成人式を迎えられました皆さん、誠におめでとうございます。これから、成人としての権利と義務が認められるとともに、社会の一員として自らの判断と責任において行動することが求められます。

皆さんには、大いなる活力と可能性がございます。これからの人生、順風のときもあれば、逆風が吹く局面もあるかと思いますが、自分に誠実に、そして周囲への感謝の気持ちを忘れずに、夢や希望の実現に向けて邁進していただきたいと思っています。

おとな 社会人としての誓いの言葉

仲間と苦難を乗り越え 地域を支える社会人になりたい

成人を迎えた皆さんの中には、進学をした方、就職をした方、結婚をした方など、それぞれの人生を歩んでいる事と思います。これまで多くの人と出会い、支えられ、そして、今後もたくさんの人と出会い、成長していくことなのでしょう。

人生という道の中で壁が立ちちはだかることや苦しいこともあると思いますが、自分を信じ、仲間と励まし合い、乗り越えていきます。そして、これからは、支えられるだけでなく、地域を支える社会人になりたいと思います。



大林 裕太(黒磯中)

西那須野会場



松本 康佑(三島中)

"人生に失敗はない" 強い信念を持って歩んでいきます

アトランタオリンピックの年に生まれた私たちですが、昨年のリオオリンピックでは新体操代表・白井選手などの同学年の選手を応援し、また彼らの活躍を誇りに思い、感動する年齢になりました。2020年には、きっと私たちの仲間がさまざま

な形で東京オリンピックに携わっていると思います。今まで関わってきた全ての人々への感謝と、自分は何者かになれる「世界に1つだけの花」である、「人生に失敗はない」、そういった信念を強く持ち、歩き続けていくことを誓います。

親元を離れて偉大さを実感 救急救命士の道を目指す

私たちは、20年前、この世に誕生し、家族の愛情をたくさん受け、育ってきました。高校卒業後に大学へ進学し、親元を離れ、改めて両親の偉大さやありがたさを感じることができました。大学では、幼い頃から興味を持っていた救急医療につ

て学んでいます。卒業後は、救急救命士として災害現場やさまざまな現場で活躍していきたいです。

まだまだ未熟ですが、一人前の社会人を目指し、どんな時も相手の立場になって考えることのできる人になりたいです。



吉沢 勇哉(帯根中)



平成29年 那須塩原市成人式

開会にあたり、国歌を斉唱する新成人。式典は多くの保護者も見守った

思い出と夢を胸に

二十歳の門出



今年、那須塩原市で1222人が成人を迎えた。それぞれが思い描く夢は違えど、自分のために、誰かのために飛躍したい…その思いは皆同じ。中学卒業から5年――喜怒哀楽を共にした旧友との再会、20年間見守ってきた家族の眼差し。二十歳の門出を迎え、夢を抱く新成人の心境を綴る。

1 月8日、少しひんやりとした晴天の下、黒磯文化会館、三島ホール、ハロープラザの3会場で成人式が行われ、989人の新成人が社会人としての決意と責任を誓った。今年の内市の新成人は合計1222人。

「久しぶりー」
「誰かと思った(笑)」
「今何してるの？」
式の開会を待つ会場の入口では、旧友との再会を喜び、思い出話や近況報告でひとしきりに盛り上がる。スマートフォンで自撮りする姿も当たり前に見られるようになってきた。そんな我が子の姿を、少し離れたところから見守る親御さんの後ろ姿は、少し寂しそうにも感じられた。

式典は、高校生による吹奏楽の演奏や郷土芸能などのアトラクションを皮切りに、成人者へ祝辞や記念品が贈られた後、代表者が誓いの言葉を述べた。恩師のあいさつや中学時代のスライドショーでは、昔の思い出を振り返り、笑い声で会場がわく場面も。

ついに巡ってきた二十歳の門出。それぞれに20年間の歴史があり、抱く夢もそれぞれ。新しいスタートラインに立った1222人の今後の飛躍を願う、祝いと誓いの式典となった。



1 12 11 中学時代を振り返るスライドショー 3 新成人への記念品贈呈。実行委員が選んだタンブラー、トートバッグが贈られた 4 タイムカプセルをあけて、思い出の品と再会 5 スマートフォンで自撮り 6 17 黒磯会場のアトラクション(黒磯高等学校の吹奏楽部による演奏。ダンスも踊った) 8 恩師紹介。ユニークな紹介で会場をわかせる場面も 9 婦人会の協力により、緩んだ振袖の着付けが行われた 10 西那須野会場のアトラクション(那須野ヶ原疏水太鼓) 12 緊張の中、司会を務めあげた実行委員 13 塩原会場のアトラクション(流響塩原太鼓)



式を企画・運営した若人の今とこれから

成人式の企画・運営は、新成人で組織する「成人式実行委員会」が担った。昨夏から、定期的に打ち合わせを重ねて準備をしてきた彼ら。プログラムの作成から記念品の手配、当日の司会・進行まで、実行委員の存在なくして成人式の成功は語れない。3会場の実行委員の代表に話を聞いた。



実行委員が作成したプログラム。
左から黒磯・西那須野・塩原



Yuta Ohbayashi

平成29年度那須塩原市成人式実行委員会
委員長・黒磯地区分科会長
大林 裕太 (黒磯中)
大学生 夢：那須塩原市を盛り上げる

自らの内に芽生えた覚悟と責任感

実行委員長という責任の重さから、最初は就任をためらったという大林さん。しかし、「自分がやるしかない」と腹を決め、全力を注いだ彼は、式後とても清々しそうだった。委員の中には地元から出ている人が多く、彼も福島県に住んでいる。そのため、会議への参加にしても、はるばる来なくてはならなかった。会議になかなか出席できない人がいる中で、仲間とのコミュニケーションを大切に、なんとか式を成功に導くことができた。「委員長として至らない点は多くありますが、社会人としての覚悟が生まれました」。最後までやり抜いた彼からは、背負ってきた重責を果たした達成感が漂っていた。誓いの言葉を読み上げた時もそれほど緊張しなかったという彼。子どもの頃から、巻狩太鼓の演奏で幾度となくステージに立ってきた



経験は、こんなところでも役に立った。「大切なのは仲間がいること。“あいつが頑張っているんだから”と思うと自分も頑張れます」と語る彼の周りにはたくさんの仲間が。これから先の長い人生で、壁にぶつかってもあるかもしれない。しかし、彼なら仲間と切磋琢磨しながら、どんな高い壁でも乗り越えていけるはず。そう確信させるほど、未来を見つめる彼の目は力強く輝いていた。

若者が輝ける未来へ向かって

若者の活力がまちの未来へ
「育ててくれた家族やふるさとに恩返しをしたい」「仲間とともに切磋琢磨していきたい」。家族、仲間、ふるさとなど、自分を育ててくれたあらゆるものに対する感謝を感じた成人式だった。新成人へのインタビューでは、東京などの都心に対して憧れを持つ声が多かった一方で、現在都心に住む人を中心に「将来は地元に戻りたい」という声も聞くことができた。このように、地元に対する愛着を持っている若者が多いことも、やがて地域の活力になる。ただ、彼らが地元・那須塩原で夢を実現するためには、活躍の場や生活の基盤がなくてはならない。**キーワードは、雇用。**
少子高齢化が加速し、経済を支える生産年齢人口も減少の一途を辿る現代。次代を担う若者への期待が高まる一方で、負担が重くなっていく将来に、不安を感じている若者も少なくないだろう。市では、栃木労働局と協定を結び、連携しながら若年層を中心とした雇用対策に取り組んでいる。4月からは市内の雇用機会の創出につなげるため、企業立地促進条例を施行し、市内に立地している企業や、新たに進出する企業を後押ししていく予定だ。

一生に一度の成人式。
少しでもみんなの
力になれたなら――

Nao Sahara

副委員長・塩原地区分科会長
佐原 菜桜 (箒根中)
専門学校生 夢：都会で働く



仲間や両親に感謝。
信頼関係づくりって
尊いものですね

Ayano Kitami

副委員長・西那須野地区分科会長
北見 綾乃 (西那須野中)
大学生 夢：作業療法士



塩原地区の成人式参加者は51人。小規模であるからこそみんなの顔や名前が分かり、アットホームな雰囲気が漂う。そんな会場の代表を務めた佐原さんは「一生に一度の成人式なので、少しでも力になって成功させたい」、その一心で実行委員を引き受けた。懐かしい友人と過ごした成人式を「感慨深いというか、感動したというか、そんな気持ち」と振り返りながら、「思い出とかお互いの近況とかを話しました」と続けた。現在、専門学校で臨床検査技師になるための勉強をしている彼女。都会での生活や一人暮らしに対する憧れがある一方、「地元が好きなので、ゆくゆくは帰ってきたいです」と、地元での将来像も描いている。

リハビリなどを通して、幅広い世代の人と向き合う作業療法士、それが北見さんの夢。実行委員の活動を「初対面の人もいたけど、みんなの支えもあり、新しい仲間もできました」と笑顔で振り返る。時間を共有して仲間と信頼関係を深めるプロセスは、リハビリで患者と向き合う作業療法の仕事にも重なる。式当日を迎え、「振袖に手を通したとき“いよいよ成人なんだ”と実感がわいてきました。直接は言うのは照れくさいけど両親にも感謝しています」と親への思いにもじませた。今年から実際に患者と接する実習が始まる。「これからは大切な時期なので、日々の学びの機会を大切にしていきたいです」と話してくれた。



子育て連絡帳

子育てに悩んだら行ってみよう！(3月)

育児相談

育児の不安、1人で悩まないで。お話しにきませんか。

保健師や栄養士などによる相談を行っています。お気軽にお越しください。

とき	ところ
6日(月) 午前9時30分～11時	黒磯保健センター
13日(月) 午後1時30分～3時	西那須野保健センター

※西那須野保健センターは事前の申し込みが必要です。

母親学級

お母さんになるための準備、みんなで一緒にしましょう！

妊婦さん同士の話し合いや体験学習をします。ママ友づくりの場にもなっていますよ！

とき	ところ
2日(木) 午後1時30分～3時	西那須野保健センター

テーマは、「産後のイメージづくりとみんなでトーク」家族の人(お父さんになる人)も、ぜひ一緒に参加してください。※予約制になりますので事前に申し込んでください。

▶予約・問い合わせ

黒磯保健センター
☎0287(63)1100

西那須野保健センター
☎0287(38)1356

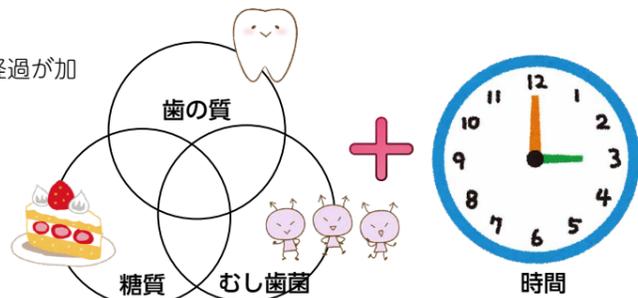
お子さんのむし歯ゼロを目指すために

生まれたばかりの赤ちゃんの口の中にはいない「むし歯菌」。両親や周りの人の口から感染すると言われています。大人の口の環境や生活習慣が、子どもの歯の健康に大きく影響を与えてしまいます。

むし歯の原因となる3つの要素

むし歯は、歯の質・むし歯菌・糖質の3つの要素に時間の経過が加わった時に発生します。

- ・歯の質：歯の強さ。乳歯や生えだての永久歯は弱いので、むし歯になりやすい。
- ・むし歯菌：口の中にいるミュータンス菌など。子どもとの食器の共有など、唾液を通して感染する。
- ・糖質：食べ物などに含まれる糖質。



むし歯発生のメカニズム

むし歯は、口の中にいるミュータンス菌などのむし歯菌が、食べ物や飲み物の中に含まれる糖質をエサとして酸をつくり出し、それによって歯を溶かしてしまう結果起こる病気です。



むし歯予防のポイント

①「食べたらみがく」親子で仕上げみがき

むし歯の原因・プラークができる前に歯を磨くのが重要なポイント。子ども自身による歯磨きの後に、親が仕上げ磨きを行いましょう。

②むし歯菌の栄養となる糖質は 時間と量を決めて

子どもにとっておやつは栄養を補う「食事のひとつ」。甘いお菓子や飲み物よりも、サツマイモやリンゴなどの季節の野菜や果物、飲み物は麦茶などの甘くない物がお勧めです。また、おやつは時間と量を決めてあげましょう。

☆可愛いお孫さんのために、おじいちゃんやおばあちゃんの協力も必要です。

③むし歯がなくても定期的に歯科医院へ通院を

むし歯がないからといって油断は禁物。歯科医院などで定期的に検診や歯磨き指導を受けましょう。むし歯になりにくい強い歯をつくるためにフッ化物の利用もお勧めです。詳しくはかかりつけ歯科医に相談してください。



07 小学生アイデア料理コンテストの受賞者が決定！

市農観商工連携推進協議会では、市内小学校4～6年生を対象に、食に対する知識を養い地産地消の推進を図るために、「お米・牛乳を使った料理」の絵とレシピを募集しました。

今回は、18校から289点の応募があり、次のとおり各賞の受賞者(敬称略)が決まりました。

▶問い合わせ 商工観光課 ☎0287(62)7130

○アイデア賞 (最優秀賞)



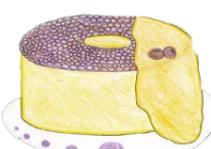
高久 千都(稲村小・6年)

○アイデア賞 (最優秀賞)



鈴木 優(東小・5年)

○レシピ賞



しっとり米粉のシフォンケーキ
室井 菜緒(大山小・6年)

○レシピ賞



丸ごとトマトのライスとんかつ
高野 楓華(稲村小・5年)

○レシピ賞



ライス・de・チヂミ
渋谷 未想(稲村小・5年)

○ライス賞



ハッピーライスボール
吉田 花会(西小・4年)

○ライス賞



和風ライスピザ
鈴木 紗羽(大山小・6年)

○おもしろ賞



丸ごとかぼちゃシチュー
城岡 空(稲村小・5年)

○お手軽賞



お米と牛乳のおやき
海老沼 伶旺(稲村小・6年)

○ミルク賞



三色牛乳かん
室井 大和(波立小・5年)

○ミルク賞



朝の目覚めに！
ブルーベリースムージー
大屋 奏和(波立小・6年)

○商品化賞



和風ミルクだんご
清水 咲良(南小・5年)

○イラスト賞



モーモーミルクもち
鈴木 渚紗(東小・6年)

～受賞作品を紹介します～

市内のスーパーで、受賞作品を展示紹介します。親子で作って楽しいレシピの数々。ぜひ皆さんも、各家庭で地元食材を使った料理を試してみてください。新しいアイデアの発見につながるかもしれません。

- ◆とき 2月28日(火)まで
- ◆ところ スワストア西那須野南店・ダイユー中央店
ザ・ビックエクストラ那須塩原店



年が明け人でにぎわう街のなか ～西那須野 花市～

1月11日、西那須野地区の桜通りで恒例の花市が開催されました。所狭しと露店が並んだ通りは、夕方になると平日にもかかわらず多くの家族連れや学生でにぎわいました。

新年の願いや目標を込めながら、片方の目を入れる縁起物のだるま。この日は、有名な「高崎だるま」と「白河だるま」が並んでいました。七転び八起きで新年の目標を達成し、だるまの両目に墨を入れたいものです。



安全・安心な食の供給と商売繁盛を願って ～新春 初競り～

豊浦にある黒磯那須公設地方卸売市場で1月5日朝、新春恒例の初競りが行われ、威勢の良い買受人の掛け声が競り場に響き渡りました。同市場では、全国各地から運ばれた青果・水産物などが並び、年間取扱高は8億円にも上ります。競りに先立ち、組合長である君島市長が「安心・安全な食料の供給基地としての役割を担えるよう、いい年にしましょう」とあいさつ。その後、参加者一同で三本締めし、2017年の商売繁盛を祈りました。



炎に願う 無病息災 ～どんど焼き～

毎年1月は、市内の各地で恒例のどんど焼きの大火を見ることができます。この行事は小正月に行われ、竹や茅などで小屋を作り、中に正月飾りなどを入れてお炊き上げを行うもの。小屋を組むのは大変な時間と人手が必要ですが、燃えて倒れるのは長くて数分。火がつけられ、炎が高く燃え上がると、会場の人たちから歓声が上がりました。炎が落ち着いてくると、持ち寄った繭玉団子を火であぶり、1年の健康を願いながらみんなでほお張っていました。

- 1 炎が落ち着くまではなかなか近づけません。
- 2 厄を払い今年1年の無病息災を祈ります。
- 3 どんど焼きの炎で炙った団子を食べると1年間病気になるのか。



あの頃の暮らしに想いを馳せて ～博物館 昭和の暮らし探検隊～

技術は日々進歩し、家の中には当たり前のように物があふれる今日。しかし、時代をさかのぼると、違う当たり前があったことに気づきます。

蠅捕器やほろ蚊帳、手で回す洗濯機など昔使われていた道具を紹介する那須野が原博物館の「昭和の暮らし探検隊(～2月19日)」。1月22日の展示解説に参加した昭和24年生まれという男性は、「全てが懐かしかった。色んなことを思い出した」と、昔の思い出話を色々と教えてくださいました。



幻想的な光を家でも楽しんで ～竹取物語 灯籠づくり体験～

塩原温泉街の有志が街中に設置した竹灯籠。毎日夕方になると、幻想的な光が温泉街を包みます。

この度、竹灯籠のミニチュア版の作成を体験できる催しが行われました。参加者は、用意された長さ約35cmの竹に穴を開けていきます。完成までは約30分ほど。温泉街を彩る大型灯籠にはかきませんが、作ったミニ灯籠は思い出たっぷりの一品。市外から親子で参加した女の子は「ベッドのところに飾るの」と、完成品を眺めていました。



安穏無事な一年への祈願と決意 ～黒磯消防団第一分団出初式～

熊本地震や台風10号による東北地方の豪雨、新潟県糸魚川市での大規模火災など、昨年にも全国で多く人命が奪われ、失われました。それらの災害時にいち早く現場に駆けつけ、地域の安全を守ってくれる消防団。その新年の出初め式が1月3日に黒磯駅前と黒磯神社で行われました。

晴天の冬空の下、制服をまとった消防団員と婦人防火クラブ員のたたずまいからは、新年を迎えての一層の決意と緊張感が感じられました。



厳かな新年の幕開け ～初日の出～

1月1日午前6時58分。西那須野三島地区の上空約100m。この時期としては朝の冷え込みが穏やかで、風も落ち着いており、辺りが静寂に包み込まれる中、とても荘厳な初日の出となりました。

徐々に八溝山系の山並みの奥から姿を見せ始め、見る見るうちにまちを朱色に染める陽光。眺めているだけで、自然と厳かな気持ちになります。

2017年が平和な年となることを期待させる、そんな新年の幕開けでした。

昆虫界の大横綱
~ヨコヅナサシガメ~



毛虫を捕らえたヨコヅナサシガメ 撮影日時:2007/5/19 撮影場所:千本松

ヨコヅナサシガメって?

体長16~24mmの外來のサシガメ類。和名の由来は、腹部の白黒の縞模様を力士の化粧まわし、もしくは行司の軍配に見立てたなど諸説ある。公園や学校、道路などに植えられた木の幹に...



羽化直後の姿(下が頭)

先月の初場所は稀勢の里が初優勝を果たし、19年ぶりに日本人横綱が誕生する... ヨコヅナサシガメは、1930年代に九州に上陸。80年代までは西日本を中心に分布していましたが、平成に入ると急激に勢力を拡大し、91年には横浜市で、95年には栃木県でも発見されるようになった。分散能力が非常に高いことから、在来種への影響が懸念されています。昆虫界も大相撲のように巻き返しを図りたいところですが、こちらはそう簡単にはいかなさそうですね。

編集後記

今年も元旦早々、初日の出を撮りに行きました。毎年撮影場所を探すのに年の瀬から市内を走り回っているのですが、なかなか良い場所(小高い場所から東方の見晴らしが良い場所で、手前に市街地が広がっているようなところ)が見つからず。思い切って今回はドローンを使ってみました。が、思ったような写真を撮るのはやっぱり難しい。来年こそは...と思うのですが、やっぱり次回も同じようなことになるのかなあ。(興野)

成人式で皆さんに書いてもらった夢、一人ひとり表現の仕方に個性がありますね。簡単そうに見えますが、友人との再会で話が盛り上がっているところを縫って交渉するので断られることもしばしば。ただ、撮影を嫌がる人でも、スケッチブックなどを使うとOKしてくれたりするので、小道具方法はかなり有効です。欲を言えば相手の表情豊かな写真が撮りたいもの。常に撮影した方に喜んでもらえるくらいの写真が撮れるよう、思考錯誤を重ねている日々です。(小林)

珍百景
なすしおばら

あなたの"珍"を募集中

<<応募方法>>

方法① きらきらホット
なすしおばらに投稿
珍百景投稿用フォームに
必要事項を入力。



方法② シティプロモーション課に電話
☎0287(62)7109

●必要事項

住所、氏名(ペンネーム)、電話番号、年齢、性別、珍百景写真、タイトル、撮影日、コメント(100字程度)

●注意点

※人権侵害、政治・宗教活動、意見広告や宣伝につながるものなど、掲載できない内容があります。
※内容を変えない範囲で添削する場合があります。
※被写体の人物または所有者などに許可を得てから応募してください。
※インターネットなどからの転載はご遠慮ください。
※応募いただいた写真は市の情報発信活動に使わせていただく場合があります。

寒そうなヒマワリ



投稿者 森 康秀さん(70代男性 高柳)
撮影場所 井口(撮影日 H28.11.24)

異常に早かった昨年の初雪。宇都宮では、11月に初雪を観測したのはなんと31年ぶりとのことでした。そんな中、市内を車で走っていると道端にヒマワリが咲いているではありませんか。雪とヒマワリの異色のコラボを記念に1枚。

3 2 5 8 5 0 1

お手数ですが
52円切手を
貼ってください

那須塩原市役所
シティプロモーション課
「広報なすしおばら係」行

ご住所 □□□-□□□□

那須塩原市

お名前(掲載する場合は実名ではなく、イニシャルで掲載します)
ペンネーム
(希望者のみ)

☎電話

年齢 歳 性別 男・女

読者プレゼントに応募しない場合は☑をいれる □ 応募しない

いつでもどこでも
広報なすしおばら
がスマホで読める

行政情報アプリ「i広報紙」が
「マチイロ」としてリニューアル!

マチを好きになるアプリ



自治体がもっと身近になる機能が盛りだくさん!

Three numbered boxes: 1. 役立つ行政情報を見逃さない! 2. 自分に合わせた情報が届く! 3. いろいろなマチの魅力をお届け!

ダウンロードはこちらから



※「i広報紙」をご利用の場合、アップデートによって新アプリに切り替わりますので、新たにダウンロードする必要はありません。 ※アプリの使用は無料ですが、通信費は各回線ごとのご負担となります。 ※広告が表示されますが、各自治体とは何ら関係ありません。

マチイロに関する問い合わせは株式会社ホープ(092-716-1404)まで

なすしおばら げんきびと 元気人

あなたの身近な
元気を募集中



>>> 西那須野スキースポーツ少年団 団長
市スポーツ推進委員協議会 会長

No. 33 粒来 紀男 さん

昭和55年、西那須野スキースポーツ少年団の立ち上げに関わり、30年以上にわたり団長を務める。平成3年からは、スポーツ推進委員を務め、平成20年に市スポーツ推進委員協議会会長に就任。現職として活動中。

Pick up



冬季は主に福島県で活動しており、初心者から自らのレベルに応じて指導を受けることができる。右奥が粒来さん



68歳を迎えた今でも、スキーへの情熱は冷めていない



現在13人の指導者、38人の団員を抱える少年団。3月から団員を募集し、4月に入団式を行うのが恒例になっている

スキーというスポーツを通じて、子どもたちに大切なことを教えてあげたい



平成27年までの4年間、自治会長を務めていたこともある。引き受けたことは、全てを前向きに真剣に取り組んできた

色

んな学校から児童生徒が集まる西那須野スキースポーツ少年団。その立ち上げに中心メンバーとして関わり、以後37年にわたって子どもたちにスキーの楽しさを教えている粒来さんに話を伺った。

白銀の世界。急斜面を縦横無尽に颯と下るスキーヤー。45年前、テレビに映ったその姿に憧れてスキーを始め、た当時23歳の青年は、すぐにスキーの魅力にとりつかれた。「もっと上手になりたい」。自らの滑りに磨きをかけようと追及を続けた彼は、10年後にスキーの指導者の資格を取るまでになった。

37年前に立ち上げた少年団は、冬季に毎週末スキー場で練習を行うだけでなく、年間を通じて体づくりのために活動

を行っている。「親御さんから子どもを預かるので、まずは安全第一。特に冬山には本当に多くの危険が潜んでいるので、注意が必要」という。ときに指導が厳しくなるが、「スキーを心の底から楽しんでもらいたい。楽しくなければ、続けられない」と笑顔の粒来さん。

1月の合宿では、あまり話したこともなかった子どもたちが、同じ部屋で生活することも。最初は緊張していた子どもたちも、次第に打ち解け、合宿が終わるころには友達に。そして、親から離れた集団生活では、身の回りの全部を自分でやらなければならぬ。また、夕食後の反省会では、全員の前で今日の反省を発表する。

「子どもたちにたくさん経験をさせてあげたい。きっと、これからの人生で役に立つと信じている」。スキーの技術向上だけでなく、人としての成長を大切にする彼はとても朗らかだ。

最近では、昔の教え子が大人になり、教える側として戻ってきてくれる。「このサイクルが生まれ、活動をやっていて本当によかった」と感慨深く話してくれた。

スポーツ推進委員協議会の会長も務める彼の冬は東奔西走。それでも「誰かのために少しでも役に立ちたい」という気持ちで、健康である限り続けた」と、粒来さんは意気込んでいた。